

目次

| 1. | . セクション | 1 |
|----|---------------------------|---|
| | 1.1. はじめに その1 | 1 |
| 2. | . 次に | 2 |
| 3. | . asciidoctor-diagramのテスト | 3 |
| | 3.1. ditaaのテスト | 3 |
| | 3.2. plantumlのテスト | 4 |
| | 3.3. graphvizのテスト | 6 |
| 4. | . ソースコード | 7 |

1. セクション

= から始まる行はセクションの見出しになります。 ==, ===, … のように = を重ねるとレベルが1つ下がります。

1.1. はじめに その1

- これはNOTEのサンプルです。
- **!** これはIMPOTANTのサンプルです。
- これはCAUTIONのサンプルです。
- ▲ これはWARNINNGのサンプルです。

2. 次に

あああああああああああああああああああああ。

図 1による。



図 1. close up the azarasi

3. asciidoctor-diagramのテスト

3.1. ditaaのテスト

図 2はditaaのサンプルです。 ditaaではascii文字のみ使用可能で日本語は無理っぽい。形式はpngのみ。

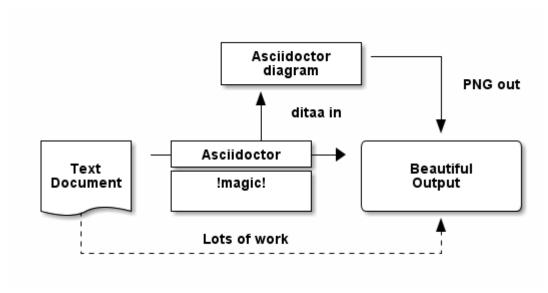


図 2. ditaa daiagram sample00

3.2. plantumlのテスト

種類をpngとすれば日本語(UTF-8)でも記述可能。svgとするときはascii文字のみで。 asciidoctor-pdfで使用している日本語フォントに合わせれば、svgでもOKの様子。

図 3はplantumlのサンプルです。

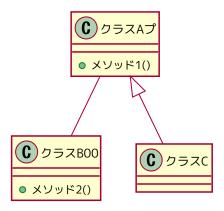


図 3. クラス図

図 4はシーケンス図のサンプルです。

シーケンス図のサンプル

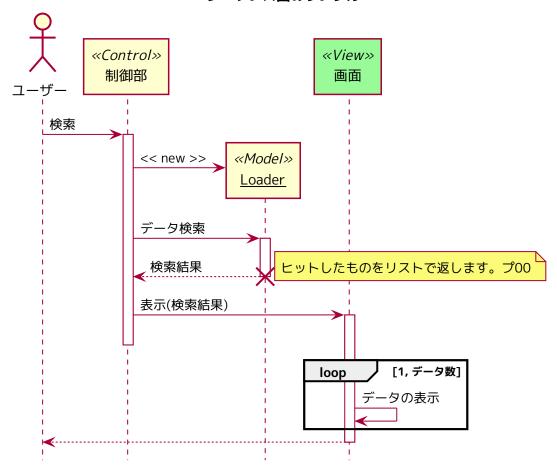


図 4. シーケンス図

3.3. graphvizのテスト

種類をpngとすれば日本語(UTF-8)でも記述可能。svgとするときはascii文字のみで。 asciidoctor-pdfで使用している日本語フォントに合わせれば、svgでもOKの様子。

図 5はGraphVizのサンプルです。

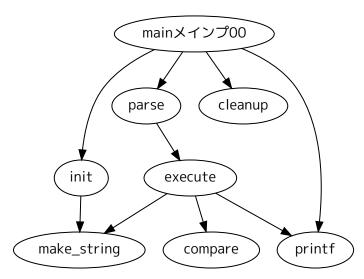


図 5. The graphviz block

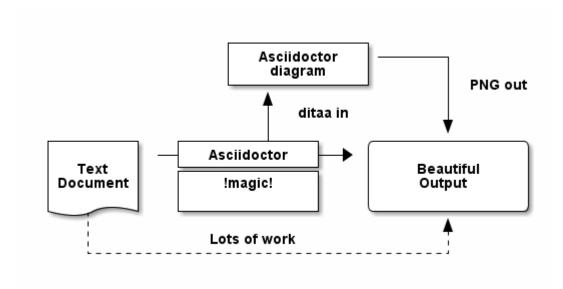


図 6. ditaa daiagram sample2

4. ソースコード

```
export default class MyComponent extends React.Component {
    render() {
        <div>Hello, World!</div>
    }
}
```